

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2024年 4月 18日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスるる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	67%	33%	その日のお子さんや年齢層によって、活動内容を考え、危険なく遊ぶことができるよう工夫している。	児童発達支援のお子さんと放課後等デイサービスのお子さんが同じ空間になる為、安全を今後ともしっかりと保持していきたい。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	2対1以上の手厚い配置を心がけている。	今後とも継続していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	78%	22%	視界に入り気になるおもちゃなどは、学習の場から話すなど配慮を行っている。	トイレの段差が気になる点はあるが、しっかりと職員が安全を見守り誘導している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	来所前・帰宅後ともに消毒を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	日々の業務で気になった点などは、言いやすい環境づくりを心掛けている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	保護者からの意見はしっかりと職員間で共有している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	毎年行っている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	0%		今後行っていきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	89%	11%	お子さんの来所されていない時間にしっかりと時間を確保し行っている。	パートの出勤日数により、参加できない人もいるため、今後機会を増やしていく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	89%	11%	保護者のニーズに合わせて職員間で共有考えている。	出勤の頻度により少し偏りがみられるため、共有のノートなどを作成していく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	計画書をより見やすくするために、フォーマットの変更も取り入れ実践した。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	職員間で共有している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	67%	33%		偏りがみられる為、職員で振り分け行っていくよう指導していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	様々な活動を経験できるように日々いろいろな活動を取り入れる努力を行っている。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	個別の声掛けや留意点などに記載し作成している。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	78%	22%	お子さんが来所される前に職員間で共有している。	パートなど出勤時間によって、お子さんが来所されていることもあり、できないこともある為、連絡事項をノートなどに記載し共有できるようノートを作成する。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	送迎後共有する。又は、次の日の朝に必ず共有する時間を設けている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々欠かさず記録を取っている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	行っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管・現場の保育士が参加できるよう職員体制を取っている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	56%	44%		しっかりと行っていきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	0%	医療的ケア児は現在通っていない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	0%	医療的ケア児は現在通っていない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	78%	22%	入学された際などにしっかりと担当の先生と情報共有を行っている。	更に共有する機会を作っていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	入学された際などにしっかりと担当の先生と情報共有を行っている。	更に共有する機会を作っていきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0%	0%		今後行っていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	78%	22%	地域の公園や、外出に出かけるなどの機会を設けている。	その際に、職員がしっかりと仲立ちとなり良好に関わることのできる体制を取っていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	78%	22%	池田の部会に定期的に参加している。	常勤のみになってしまっている。情報共有をしっかりと行っていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時丁寧にお話する機会を作っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0%	0%	実施者がいない。	ペアトレの資格を取っていきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時にしっかりと時間をとり行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	しっかりと時間を確保している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	送迎時や連絡帳、ラインなどのツールを利用し相談しやすい環境を作っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	67%	33%	2周年の保護者会や夏まつりなど集まる機会を作っている。	更に増やしていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	すぐに対応するよう心がけている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎月、次月の予定を配布したり、お子さんそれぞれの振り返りをコメントを付け配布している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	施錠を行っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	研修の機会も利用し行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	夏祭りの際は、地域の方も歓迎している。また、今年度は地域の方と一緒に餅つき大会も実施した。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	67%	33%	定期的に行っている。	さらに回数を増やし行っていく必要がある。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	しっかりと共有している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アレルギーのあるお子さんにはしっかりと注意し管理している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	78%	22%	行っている。	都度できず、時間が経ってからの記入になってしまうため、記入しやすい場所に用紙を設置していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	しっかりと確保している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	記載している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。